的極相として，トネリコやカンバ林，ハイデが成立し，また砂質土にはナラ・シデ林が立地している。大陸的なヨーロッパでは，ブナの限界のすぐ東方では，まずシデが優勢となり，次にナラが優占する。このナラは，ウラル山脈にまで及ぶ。ウラルの西方では，自然林にはナラとシナノキが混じっていたが，人が用材として役立つナラをさかんに伐採した結果，シナノキが優占するようになり，今日，シナノキの花季には養蜂家が集るようになった。ヨーロッパの落葉樹林帯の北側には，バルト海からウラル山地へ向って，楔状に入りこむ混合林帯がある。この混合林帯には北方のタイガの針葉樹種と，南方の落葉広葉樹種が混合しているが，両者は決して均質にまじり合うのではなく，針葉樹は，北斜面や湿地に，広葉樹は南・西斜面や，より良質の土壌に，モザイク状の小塊をなして分布している。人間は，この地帯の北部では，比較的良い土壌の広葉樹林を伐採して耕地に変え，一方南部では用材として有用な針葉樹林を伐採して，自然林の組成を変えている。

本格的なタイガは，ヨーロッパロシアの北部から，フィンランド・スウェーデンまで分布し，ノルウェー側は，マツやカンバ類が多い。地中海地方の原植生は，セイヨウウバメガシの高木林であったが，数千年前から，斜面の耕作や過放牧をつづけた影響で土地が荒廃し，現在は退行植生であるマキー（叢林）やガリーク（荒原）となっている。（７月５日）

アメリカ南西部の自然と人文

式　正英

１９７２年１１月から４ケ月間滞留したアメリカ合衆国南西部ベースン・アンド・レンジ地域のソノラ砂漠を中心に，自然と人文の基礎的事項を紹介する。年降水量は３００㎜以下で乾燥の中心はカリフォルニア湾頭にあり，年々の降水量の差異によって，ステップとの境界は変動して定まらない。スワロ・カクタス，オコティーヨなど自然植生の特色によって周辺の他の乾燥地とは区別されるが，ソノラ砂漠の範囲は米墨の国境にまたがる地域を占め，面積３０万k㎡に及ぶ。盆地と山地が交互に分布するがいずれも長軸は北々西一南々東方向をとり，盆地は連接し，山地は盆地を囲むが不連続である。盆地底はペディメント，バハダが大半を占め，最低所はプラヤか間歇河川沿いの沖積地となる。盆地床堆積物のうち，漸新統・中新統の砂礫層は造山運動によって著しく擾乱をうけ，鮮新統は小礫・砂の水平層，更新統は開析バハダの砂礫層，沖積統は砂，シルト層である。古第三紀以来，盆地堆積層はすべて陸成であり，陸上削剝がその間続いてきたことを示している。

アロヨ・カッティングは，間歇河川が沖積層を刻む側食崖であり，その細砂，シルトの露頭中には，先史時代のインディオの住居跡など遺跡・遺物が埋没している。シェネガクリーグの沖積地ではその年代測定から，１０００年Ｂ．Ｃ．～１８９０年Ａ．Ｄ．の約３０００年間，堆積傾向にあり，以後現在にいたる８０年間はアロヨ・カッティングの示す侵食傾向にある。この原因の一つに放牧地の増大による植生破壊があげられる。アロヨの側食崖やそれに続く無従谷の崖は垂直であり，パイピングがその主要な営力と考えられている。パイピングは，崖に近い平坦な地表に先ず円形の深い凹地をつ

くる。

カリチェは水分の蒸発によって凝結した炭酸カルシウムで，段丘や崖錐や峠などで地表が礫で構成されている部分を蔽って白色の固い冠層をつくる。地下水，土じょう水から凝固するので地下水面がさがりすぎると形成されにくい。植生は高度により海抜１３５０m以下はパロヴエルデ，メスキート，カクタス類の沙漠植生，その上部はジュニパー，１６５０m以上はポンデローサ松などの常緑針葉樹に変化する。山頂部は「沙漠の中の緑の島」であり，テューソン郊外のレモン山（２７００m）の頂部は夏の間の別荘地が開け，冬にはスキーができる。原住民文化地域としては，高・低位文化の境界部にあたり，採集段階のセリ，遊牧的なアパチエ，半遊牧のパパゴ，灌漑農業を営むプエブロ・インディオスのピーマ，ホピ，ズニーが地域ごとに住みわけていた。（９月２０日）

テレビニュースからみた日米の文化的相違

小 玉 美意子

社会とマスコミは，お互いに鏡と被写体の関係にある。マスコミは社会を映し出し，人々はマスコミに映った姿を見て，これが社会のありさまだと思う。その過程でマスコミは，社会現象の目立ったものを取り上げるので，次に人々が社会を認識する段階では，その特徴がより大きく成長している。このようにマスコミは，社会を反映すると同時に，社会のもつ特徴を増幅する作用がある。

そこで，日本とアメリカに於て最も発達していて，影響力のあるメディア，テレビを使って，両国の文化を比較してみた。テレビ番組の内，直接的で事実に基いたものはニュースなので，両国の代表的ニュース番組「ＣＢＳイブニングニュース」と「ＮＨＫ七時のニュース」を中心に比較検討した。

両国ニュースの基本的な相違は次の通り

一，米国ではローカルニュースが多いのに対し，日本では全国ニュースが中心。

二，日本では公共放送（ＮＨＫ）が権威を持っているが，米国では商業放送が信頼されている。

三，米国では「誰」が報道するかが重要だが，日本では「どこの局」かが問題。

四，「報道の公正中立」という概念の解釈が，米国では「言論の自由」に重きをおき，日本では「不偏不党」に重きをおく。

五，ニュース・カテゴリーの分類の結果，「環境」「交通」「季節と年中行事」「科学」に関するニュースが，日本と比べ米国では著しく少ないことが分った。

このような違いを生み出した原因として，地理的，歴史的，社会的，政治的要因があげられ，更に，それらによって形成された国民性がニュースのあり方を左右していると考えられる。それは実生活でも，ニュースに表われたと同じ傾向が形を変えてみられることからもうなづける。

このようにして，ニュース，或いは，放送を含むマスコミは，現在の文化を映し出し，更に，次代の文化の指針ともなり得るのである。（１１月８日）